

1. 感謝板倉聖哲、林莉娜、劉芳如、Hui-chi Lo, Susan Huang, 石釗釗、與黃立芸所提供的資訊。
2. 目前原則上固定於每週五寄發，包括展覽、演講、會議議程與徵文、網路資源、研習營等訊息，歡迎大家多多貢獻資訊。
3. 若有與中台藝術史或文化史相關的研究、演講、展覽、或會議之訊息，不論來自何地，都歡迎提供，我會將之轉給大家。雖然未必能與會，分散於天涯海角的我們卻可對各地情況有所瞭解。
4. 最新訊息以紅色標示，內容包括中(Big5)、英、日文(IME)碼。
5. 本期更新：[展覽](#)、演講、研討會、工作坊、call for proposals、[網路資源](#)。
6. 如有其他同好對此電子報有興趣，請告知電子郵件位址，我將加入寄送名單中。若不願收到，也請告知，以方便作業。

展覽：

■ 台灣

1. 國立故宮博物院

■ 亞洲

1. 廣東省博物館
2. 中國絲綢博物館
3. 浙江省博物館
4. 天津博物館
5. [遼寧省博物館](#)
6. 香港茶具文物館
7. [澳門藝術博物館](#)
8. 根津美術館
9. 五島美術館
10. 東京國立博物館
11. 岡山縣立博物館
12. [京都國立博物館](#)
13. [奈良國立博物館](#)
14. [大阪市立美術館](#)

■ 歐美

1. Guggenheim Museum, NY
2. Cantor Arts Center, Stanford University

台灣

1. 國立故宮博物院

1) 偽好物—十六至十八世紀「蘇州片」及其影響

2018-07-01~2018-09-25

210

2) 紫砂風潮：傳世器及其他

2018/4/8-2019/

207

3) 適於心—明代永樂皇帝的瓷器

2017/5/18—

北部院區展覽區一 203

4) 杏林春暖-養生醫療趣味書畫

2018/7/01-9/25

204, 206

5) 鬼功·象牙球：牙雕的奇巧極致

展期：2017/12/30~2018/07/01

故宮南院

6) 院藏善本古籍選粹

展期：2018/1/20-11/04

104

7) 千年一問—鄭問故宮大展

2018/6/16-9/17

北部院區 第二展覽區 圖書文獻大樓一樓特展

8) 天香茄楠—香玩文化特展

2018-05-25~2019-10-20

北部院區 第一展覽區 304

「天香」二字，取自北宋丁謂所著《天香傳》，為中國最早針對沉香所做之專著。「茄楠」是明代開始視為最高等級的沉香。沉香的形成是由瑞香科樹木經過刀傷、蟲蛀或細菌感染傷口所分泌的樹脂，經過長時間結節而成，即所謂「結香」。主要出產於兩廣、海南、越南與東南亞等地。因為特殊的結香方式，成為或蜜香或乳香，既醇厚又清涼的幽遠香味。自古以來，為世人所重，在生活、宗教、醫學都被妥善使用，發展出獨特鑑賞方式、隨身香佩及薰燃器具，成為奢華尊貴又帶有士人風雅的香玩文化。將展覽取名為「天香茄楠」，期待觀者除欣賞工藝製作之美外，更能探尋如天香般令人難忘的香味。

展覽分成兩部分，一是「香之道」，通過國立故宮博物院所收藏的宮廷茄楠沉香，看過去的日子裡，稀有的沉香是如何被珍藏、穿戴及薰燃品玩，故分為「收藏陳設」、「隨身佩飾」、「品香香具」三個單元，以了解古人是如何使用這種價比金高的香中鑽石，讓生活更有味道。二為「香之味」，看今日除收藏、佩戴外，過去數十年來，台灣復興了品香文化。以品香為主，發展出完整的香席器用，藉由展出「香具藝術」與「品香空間」二單元，讓這些優秀的創作來說明現代人如何玩香，同時傳遞著屬於現代人生活的美感。

在沉香越來越稀少的今日，透過展覽，看當時宮廷如何將最上乘的沉香，奢侈的做成各種精美的香玩器。也經由台灣在地的本土創作，將生活美學淬煉在玩香的器具。

9) 何處是蓬萊—仙山圖特展

2018/7/1-9/25

202, 208, 212

蓬萊仙島與崑崙神山是傳說中的兩大仙境樂園，《史記》記載，戰國時期君王遣人探求「蓬萊、方丈、瀛洲」三神山，而崑崙山則是《山海經》所描述的神域。兩地皆居住著仙聖，並有豐富物產及神異動植物。六朝至唐代時期，隨著道教盛行，道士們逐漸將地圖上的真實名山仙道化，形成洞天福地之說，使得仙境更具現實性。名山洞府對於追求仙道的人而言，不僅是採藥、煉丹、修行的地方，更是遇仙、升仙的媒介。

傳世山水畫中蘊含不少仙境題材的作品，院藏宋元明清的畫作也具備多樣且豐富的仙山面貌。本展精選三十幅繪畫，規劃為「仙境飄渺」、「別有洞天」、「修行採藥·遇仙升仙」三個單元。

第一單元「仙境飄渺」，呈現畫中瑰奇變幻的仙山樓閣，以及崑崙、蓬萊、方壺、瀛洲等仙境樂園，作品包括宋繡絲〈仙山樓閣〉、明文伯仁〈方壺圖〉、傳宋趙大亨〈蓬萊仙會〉等。第二單元「別有洞天」以道教的洞天福地觀念為主軸，章顯靈山洞府的神秘氛圍，與道士畫家對聖山的崇敬，傳五代董源〈洞天山堂〉、元方從義〈神嶽瓊林圖〉是代表作品。此二件作品屬於限展品，分前後期展出。第三單元「修行採藥·遇仙升仙」則是探尋一般人的慕仙心理，及入山修道由凡入聖的實踐與超脫，展件包括傳宋燕文貴〈三仙授簡〉、明崔子忠〈雲中雞犬〉等。期盼藉由展覽的推出，讓觀眾神遊古畫裡的仙山聖境，並領略此中深刻的文化意涵。

10) 典藏新紀元——清末民初的上海畫壇

2018-07-01~2018-09-25

北部院區 第一展覽區 105,107

本展覽為「典藏新紀元」系列特展之一，以清末民初的上海畫壇為題，展陳五十八件作於 1850 至 1930 年代之間的作品。上海於 1843 年開埠，逐漸躍昇為中國對外貿易第一大港。經濟發展造就了新富階級，其對文化商品的大量需求，復帶動書畫市場的蓬勃。大江南北的書畫家薈萃於此，以書畫買賣為營生。他們筆下鮮麗明快的色彩、通俗易懂的題材，吸引來自海內外的廣大主顧，形成了俗稱為「海派」的紛然面目。

展覽透過「八方雲聚」、「金石花鳥」、「山水土氣」、「書畫營生」等四個單元，探索這時期上海畫壇多元風格的生成、金石畫派的興起、山水畫風的發展、以及書畫贊助形式的轉變。藉著梳理花鳥、山水與人物等傳統題材在近代繪畫市場勃興之際的演變與發展，冀能引領觀眾進入二十世紀之交上海繁華多彩的繪畫世界。

11) 品牌的故事—乾隆皇帝的文物收藏與包裝藝術

南院

展期 | 2018.07.24-10.14

地點 | 國立故宮博物院南部院區 S101 借展廳

<https://artouch.com/artouch2/content.aspx?aid=2018011215286&catid=02>

12) 國寶再現—書畫菁華

2018-10-04~2018-12-25

北部院區 第一展覽區 210

北部院區一〇七年再度推出「國寶再現—書畫菁華特展」，於二一〇陳列室展出二十六件國寶級精品，內容包括東晉王羲之（303-361）、唐閻立本（?-673）、玄宗李隆基（685-762）、徐浩（703-782）、宋范寬（約950-1031間）、易元吉（11世紀後半）、蘇軾（1037-1101）、米芾（1051-1107）、高宗趙構（1107-1187）、蕭照（12世紀）、夏珪（活動於1195-1224）、馬麟（活動於1195-1264）、金武元直（活動於1149-1189）、元鮮于樞（1256-1301）、趙孟頫（1254-1322）等名家之作，件件俱為美術史中聲名赫赫的一時之選，肯定是今年院慶期間最吸睛的藝術展演。

展期自一〇七年十月四日至十二月廿五日，其中限展品，將分前後期展出，十月四日至十一月十四日為前期，十一月十五日至十二月廿五日為後期。類此重量級的精品展出至為難得，竭誠歡迎大家把握良機，細細品賞國寶名作之美。

(選件目清單請見附件)

<https://zhuanlan.zhihu.com/p/36817961>

亞洲

1. 廣東省博物館

十三到十四世紀亞洲東部的陶瓷貿易

2018/4/27-8/26

2. 中國絲綢博物館

1) A World of Looms – Weaving Technology and Textile Arts in China and Beyond

2018/5/30-9/15

This is the first exhibition in China to present the rich cultural heritage of looms and weaving technologies from around the world. It celebrates the marches of textile innovations in not only China, but also in a broader context of textile traditions over vast geographical areas. The exhibition will be divided into three galleries – China, Eurasia, Americas and Africa – each featuring a representative selection of looms. These range from recently excavated archaeological findings, through to Jacquard looms and multi-shaft looms.

Conference: 31 May 2018

A one-day conference runs concurrently with the exhibition *A World of Looms* and features many distinguished textile scholars including OATG member Chris Buckley. The presentations are very diverse and cover loom technology from China, Japan, Laos, Indonesia, Iran, Africa, and the Andes. Admission is free, but reservations are recommended.

[https://www.academia.edu/36235810/A World of Looms Weaving Technology and Textile Arts in China and Beyond conference flyer and program](https://www.academia.edu/36235810/A_World_of_Looms_Weaving_Technology_and_Textile_Arts_in_China_and_Beyond_conference_flyer_and_program)

2) 神機妙算: 世界織機與織造藝術

2018/5/30-9/5

3. 浙江省博物館

1) 越地寶藏: 一百件文物講述浙江故事

2018/6/8-10/8

4. 天津博物館

1) 清代中期繪畫特展

天津博物館五樓書畫廳

分兩期進行，第一期展出時間自 5 月 16 日至 8 月 12 日，更換部分展品後，第二期將持續到今

年 11 月中旬結束。

兩期展覽將展出 84 位畫家 160 余件繪畫珍品。天津博物館藏黃鼎《長江萬里圖》卷、無款《乾隆題阿玉錫像圖》軸（即《紫光閣功臣像》）、冷枚《春閨倦讀圖》軸、袁耀《汾陽別墅》通景十二條屏、鄭燮《華峰三祝圖》軸、康濤《華清出浴圖》軸，故宮博物院藏郎世寧《弘曆觀畫圖》軸、冷枚《梧桐雙兔圖》軸，上海博物館藏郎世寧《聚瑞圖》軸、丁觀鵬《乞巧圖》卷，遼寧省博物館藏董邦達《盤山十六景圖》卷，浙江省博物館藏羅聘《金農像圖》軸，西安博物院藏顏嶧《江村圖》軸，揚州博物館藏蕭晨《桃花源圖》軸，天津市文物公司藏李世倬《截寫長江山水圖》卷等重要展品將悉數亮相。

https://mp.weixin.qq.com/s/1XmpWAqr6u55_8V4rE5-ug

2) 耀世奇珍-馆藏文物精品陈列

5 月 29 日~

5. 遼寧省博物館

1) 滿庭芳華——館藏明清花卉畫展

展期：2018 年 6 月 15 日——8 月 19 日

地點：遼寧省博物館一層 1 號臨時展廳

2) 中國古代書法

3) 中國古代繪畫

<https://mp.weixin.qq.com/s/5bbC64IiBGX4zIaEknLCPw>

6. 香港茶具文物館

藝術背後——中國外銷茶具展

2018.04.18-10.31

<https://artouch.com/artouch2/content.aspx?aid=2018041921442&catid=02>

7. 澳門術博物館

漁山春色——吳歷逝世三百周年書畫特展

2018/9/8-11/11

<http://www.mam.gov.mo/c/exhibition/2/detail/1e2cda0a-02e7-4a5d-9e4f-f24c3bdac6f2>

8. 根津美術館

禪僧の交流: 墨蹟と水墨画を楽しむ

2018 年 9 月 1 日（土）～10 月 8 日（日）

中世、日本と中国の僧たちは商人の船で渡海し、親しく交流をもっていました。その様子は、師から弟子へ与えられたものをはじめ、禅僧が書いた個性豊かな墨蹟からもわかります。一方で日本の禅僧は、中国の文人にならった文化サークルに集い、その仲間とともに水墨画を鑑賞して賛を付し、詩と絵とによる見事な作品を誕生させました。また禅僧の中には、有名な雪舟のように絵画制作を専門とした者もいました。

禅僧たちによつてはぐくまれた、人と人による交流の中で生まれた墨蹟と水墨画の名品をご紹介します。

<http://www.nezu-muse.or.jp/jp/exhibition/next.html>

9. 五島美術館

禪宗の美術と學藝

2018年8月25日〔土〕—10月14日〔日〕

10. 東京国立博物館

1) 中国の書跡 江戸期舶載の書

東洋館 8室 2018年6月26日（火）～2018年8月26日（日）

江戸後期の文人市河米庵（1779～1858）は唐様に秀で、巻菱湖・貫名海屋とともに幕末の三筆に併称されています。彼は諸大名・旗本・僧侶・町衆・閨秀など五千余人の門人を擁したといい、その財力を背景に長崎経由で舶載された金石書画の蒐集に努め、弘化3年（1846）頃、収藏品図録『小山林堂書画文房図録』を刊行しました。それらの大半は米庵の没後に散逸してしまいましたが、明治に入ってから米庵の子孫が再収集し、帝室博物館に寄贈され今日に至っています。米庵コレクションの中には、書画史には名を列ねない作家のものも含まれ、中国書画史のみならず江戸時代の文化を考える上でも貴重な資料となっています。

2) 中国近代絵画の巨匠 齊白石

2018年10月30日～12月25日

主催者：東京国立博物館、京都国立博物館

場所：東京国立博物館 東洋館

内容：本展は東京国立博物館と京都国立博物館の共同企画である。北京画院美術館より、中国近代絵画の巨匠である齊白石の優品を借用し、その魅力を日本の観衆に広く紹介する。

3) 特別展「顔真卿 王羲之を超えた名筆」

平成館 東京国立博物館、毎日新聞社

2019年1月16日(水)～2月24日(日)

唐時代、歐陽詢・虞世南・褚遂良の三大家が楷書の典型を完成させました。三大家の伝統を継承しつつ、新たな筆法を創出したのが顔真卿です。本展は、唐時代の書を取りあげ、国内外の名品を通して、顔真卿の人物や書の本質に迫ります。また、後世に与えた影響や日本での受容にも目を向け、唐時代の書の魅力をご紹介します。

11. 岡山県立美術館

生きてゐる山水: 廬山をのぞむ古今のまなざし

Working Scape: Respect the True Nature of Mt.Lu

◆2018年8月31日(金曜日) - 9月30日(日曜日)

玉潤《廬山図》(重要文化財)は、当館のコレクションを代表する水墨の名品です。また、廬山の位置する江西省と岡山県は、1992年に友好提携を結び交流が続いています。本展では、陶淵明や李白の名詩、「虎溪三笑」の故事でも名高い廬山に着目し、中国の宋・元時代から日本の近世にかけての名品に現代作家・山部泰司(1958年岡山県生まれ)による新たな風景表現の視点を加え、時を越えて生き続ける「山水画」の真髄を探ります。

12. 京都国立博物館

知恩寺の名宝

2018/8/7-9/9

http://www.kyohaku.go.jp/project/chionji_2018.html

13. 奈良国立博物館

1) 糸のみほとけ—国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏展

2018/7/14-8/26

日本では刺繡(ししゅう)や綴織(つづれおり)など「糸」で表された仏の像が数多く作られました。とりわけ、古代では大寺院の一堂の本尊とされる花形的存在でした。綴織當麻曼荼羅(つづれおりたいままだら)(国宝、奈良・當麻寺蔵)や刺繡釈迦如來說法図(ししゅうしゃかによらいせつぼうず)(国宝、奈良国立博物館蔵)は、その隆盛のさまを伝える至宝です。また、糸を縫い、織る行為は故人の追善につながり、聖徳太子が往生した世界を刺繡で表した天寿国繡帳(てんじゅこくしゅうちょう)(国宝、奈良・中宮寺蔵)が生み出されました。鎌倉時代以降、刺繡の仏は再び隆盛を迎えますが、その背景には綴織當麻曼荼羅を織ったとされる中将姫に対する信仰がありました。極楽往生を願う人々は中将姫(ちゅうじょうひめ)に自身を重ね刺繡によって阿弥陀三尊来迎図(あみださんぞんらいごうず)や種子阿弥陀三尊図(しゅじあみださんぞんず)を作成しました。

この展覧会は綴織當麻曼荼羅の修理完成を記念し、綴織と刺繡による仏の像を一堂に集める特別展です。天寿国繡帳、綴織當麻曼荼羅、刺繡釈迦如來說法図の国宝3点が一堂に会する空前の企画です。本展を通して絵画とも違う「糸」の仏の世界の魅力をご鑑賞いただければ幸いです。

2) 第七十回 正倉院展

2018/10/27-11/12

秋の奈良の風物詩ともいわれる正倉院展は、今年70回の節目を迎えます。今年は北倉(ほくそう)10件、中倉(ちゅうそう)16件、南倉(なんそう)27件、聖語蔵(しょうごぞう)3件の、合わせて56件の宝物が出陳されます。そのうちの10件は初出陳を含みます。

今年は聖武天皇ゆかりの平螺鈿背八角鏡（へいらでんはいのはつかくきょう）をはじめ、沈香木画箱（じんこうもくがのはこ）、玳瑁螺鈿八角箱（たいまいらでんはつかくのはこ）、犀角如意（さいかくのによい）など、貴重な素材を惜しげもなく使い、技術の粋を尽くした華麗な工芸品が目を楽しませてくれることでしょう。

一方、今も身近な素材である麻は、古来様々な用途に用いられ、麻布は税として地方から都に納められました。今年は平成25年度から27年度にかけ、宮内庁正倉院事務所によって行われた特別調査を踏まえ、麻を用いた様々な宝物が出陳されます。麻と人間の織りなす文化史に思いを馳（は）せてみてください。

この他、正倉院宝物と同時代に、朝鮮半島に栄えた王国・新羅（しらぎ）に関わる宝物も多数出陳されます。唐との交流だけではない、奈良時代の多様な国際関係に、目を向けていただく機会となれば幸いです。

近年の様々な成果を反映した平成最後の正倉院展を、宝物を伝えた奈良の地でお楽しみください。

14. 大阪市立美術館

阿部房次郎誕生一百五十年記念:中国書畫名品展

2018/10/16-11/25

歐美

1. Guggenheim Museum, NY

The Robert H. N. Ho Family Foundation Chinese Art Initiative Final Exhibition

2018/5/4-10/21

The third and final exhibition of The Robert H. N. Ho Family Foundation Chinese Art Initiative will present new commissions by Cao Fei, Duan Jianyu, Lin Yilin, Wong Ping, and Samson Young. These artists have been selected for their unconventional artistic practices, creative experimentation, and critical reflections on social conditions in a technologically mediated reality. Each will collaborate with the museum on individual site-specific projects that respond to interconnected ideas proposed by the curators of the initiative.

Launched in 2013, the initiative engages artists, scholars, and curators from around the world to bring intersecting regional and global conversations and contemporary practices to the fore. Through the selection of key artists, practices, and issues arising from across Greater China, The Robert H. N. Ho Family Foundation Chinese Art Initiative strengthens the Guggenheim's collegial network among the Chinese art community and expands the discourse and investigation of contemporary art today. The most recent presentation, *Tales of Our Time* (2016–17), was a group exhibition that included a robot-operated installation of monumental scale, a public tea gathering in an indoor garden setting, and immersive video works to explore and challenge the notion of place. The first exhibition of the initiative, *Wang Jianwei: Time Temple* (2014–15), featured a sculptural installation, paintings, a film, and a

performance by Wang Jianwei, one of China's leading conceptual artists. All works created through the initiative will form The Robert H. N. Ho Family Foundation Collection at the Guggenheim.

2.Cantor Arts Center, Stanford University

墨境 Ink Worlds: Contemporary Chinese Painting from the Collection of Akiko Yamazaki and Jerry Yang

May 23, 2018–September 3, 2018

研討會

1. 2018 年「使節・海商・僧侶：近世東亞文化意象傳衍過程中的中介人物」國際研討會

主辦單位：

中央研究院・主題計畫「使節・海商・僧侶：近世東亞文化意象傳衍過程中的中介人物」

時間：

2018 年 08 月 30 日（四）上午 9：00 至 2018 年 08 月 31 日（五）下午 5：30

地點：

中央研究院人文社會科學館 3 樓第二會議室

※線上報名：

<https://goo.gl/forms/UO6LY7Zj2xZQ6rja2>

報名資訊：結果於 8 月 25 日公布，主辦單位保留刪取之權利。

網路報名名單請見「報名名單」，請記下編號以便加速報到程序。

名單公佈後並會以 email 通知，若未收到信件，請來信 eastaisa@gate.sinica.edu.tw 詢問。

相關連結：

https://eastasia201808.blogspot.com/2018/06/blog-post_97.html

2.International Conference: From the Silk to the Book Road(s): Networks of Commerce, Artifacts, and Books Between Central and East Asia

September 21-23, 2018;

Berkeley, California, USA

<http://frogbear.org/international-conference-from-the-silk-to-the-book-roads/>

Panelists and topics:

<http://frogbear.org/international-conference-from-the-silk-to-the-book-roads-panelists/>

網路資源

1) ColBase: 国立博物館所藏品統合検索システム

国立文化財機構の 4 つの国立博物館（東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）の所蔵品を、横断的に検索できるサービスです。

<https://colbase.nich.go.jp/>

このシステムに収録しているデータは、各館の所蔵品を対象としており、寄託作品は含まれません。また画像については、作品の著作権保護期間をすぎているもののうち、デジタル画像が準備されているものに限られます。また日本語以外の言語によるデータの収録も、一部の作品に限られます。

データの内容には不十分な点や、一部に不備・誤りがある場合があります。継続的に訂正を行なってまいります。正確性等について保証するものではありませんのでご了承下さい。

2) 日本美術図書館横断検索

<https://alc.opac.jp/search/book/>